

生成AIの進化に伴って、その活用と悪用対策の両面で、新たな仕事や産業が生まれつつある。AIを支える人間の役割は主に二つ。①AIに正しい知識を与えることと、②AIの正しい動作や運用をチェックすることにある。

AIとデータワークの関わり

AIを支えるデータワーク

生成AI時代の仕事(3)

は、高度な数学や専門の言語ではなく、自然言語、画像、音声といった人間の理解できるデータが必要になる。そのため、こうしたデータと向き合う仕事、つまり

は、高度な数学や専門の言語ではなく、自然言語、画像、音声といった人間の理解できるデータが必要になる。そのため、こうしたデータと向き合う仕事、つまり

言葉や表現の意味を正しく分類したりする、特殊なスキルを必要としない、大量の単純作業が中心であった。アルゴリズムの進化や学習済みの生成AIの登場で、一般的な教師データ作りの必要性は明らかに減ってきた。



黒田 由加(くろだ ゆか) コンサルティング事業本部ココロミルラボ副室長

その一方で、より専門的で限定的な知識に関するデータワークが求められている。地域、業界、企業固有の状況や作業手順に関する知識などの多くは、頭の中だけにある「暗黙知」でデータになっていない。データの

を具体的にどう変更するとかどうかという手順や好事例を整備して活用するのだ。また、生成AIに意図的に偽情報を作らせたり、生成AI自体も社会的・倫理的に問題のある回答をした

ライアントからの要望は、「今っぽくして」など感性や感覚的なものが多い。生成AIは、そうした指示から誤りを正すという「データ即座にデザインの修正候補を提示できる。生成品質をより高めるためにデータワークが重要になる。こういう要望の時には、デザイン